

【情報通信業への就職者割合】

4.2%

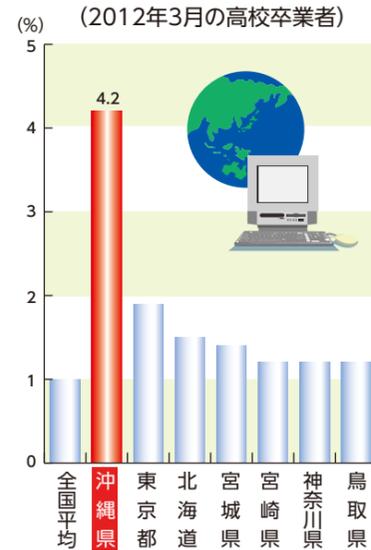
ITの発達とともに、経済のグローバル化も急速に進展している。沖縄県でも、コールセンターなどの情報通信サービス業を中心に、企業立地や雇用者が増加し、IT関連産業の発展が著しい。

文部科学省「2011年学校基本調査」によると、今年卒業する県内の高校生が情報通信業に就職した割合は、4.2%で全国トップとなっている。

情報通信産業は、観光産業に次ぐ新しいリーディング産業として注目され、マルチメディアアイランド構想などが実施されている。

一方で、国内の大手企業は安い人件費を求めて、BPO事業を中国へと委託するケースが増えているようだ。安価な人件費に対抗するためには、情報処理に留まらず、ソフトウェア開発や、コンテンツ開発などができる高度な技術や知識を身に付けた人材の育成が必要だろう。

(海邦総研事業支援部/國吉真吾)



【家族経営協定締結農家の増加率】

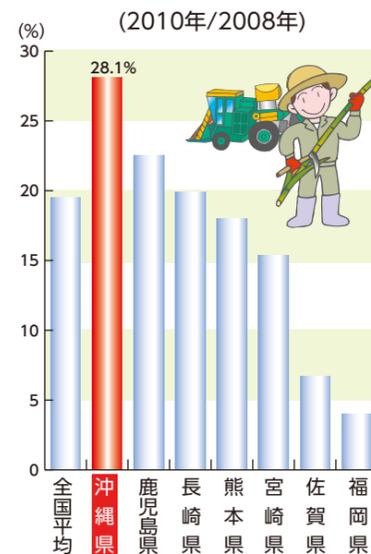
28.1%

しばしば聞かれる農業分野の後継者問題。最近では農家の家族経営も明確な方針や役割の分担、労働時間を取り決めるなどして、配偶者や後継者にとっても、魅力的でやり甲斐のある農業にする努力が浸透しつつあるらしい。

農林水産省「2011年家族経営協定に関する締結農家数調査」によると、10年度の沖縄県の農家数は488戸。3年前の381戸から107戸増えており、増加率は28.1%になり九州ではトップだ。

農業はその土地や気候を知り尽くした経験に基づく細かな技術や調整が求められる。また、販売者の視点も重要で、大切に育てた作物のネット販売や、加工品販売は女性や若者が得意だ。家族だからこそそのチームワークを活かした魅力ある農作物を今後も期待したいものだ。

(海邦総研事業支援部/比嘉明彦)



【市町村別製造品出荷額等】

5,654億円

沖縄県の産業構造の特徴のひとつとして、製造業の割合が全国と比較して小さく、製造業を中心とした地場産業の活性化が望まれている。

経済産業省「工業統計調査」をもとに沖縄県の産業を出荷額ベースで見ると、石油製品・石炭製品、食料品、飲料・たばこ・飼料が主となっている。

市町村別の製造品出荷額等を見ると、西原町が2,118億円。これは県内の約4割を占める出荷額だ。

また品目別では、全国上位に入っているものも少なくない。「粗糖」はもちろん全国1位だ。その他にも「食卓塩」全国3位をはじめ織物関係の品目やガラス製台所用品・食卓用品、陶磁器関連の製品など、限られた地域でしか算出されていないこともあるが、これらも沖縄の代表的な産業といえるだろう。

(海邦総研経営企画部/新里治史)

市町村	製造品出荷額等 (億円)
1位 西原町	2,118
2位 浦添市	533
3位 糸満市	370
4位 沖縄市	365
5位 うるま市	354
6位 名護市	349
7位 那覇市	292
8位 南城市	213
9位 宮古島市	143
10位 読谷村	129

【外国人登録者数】

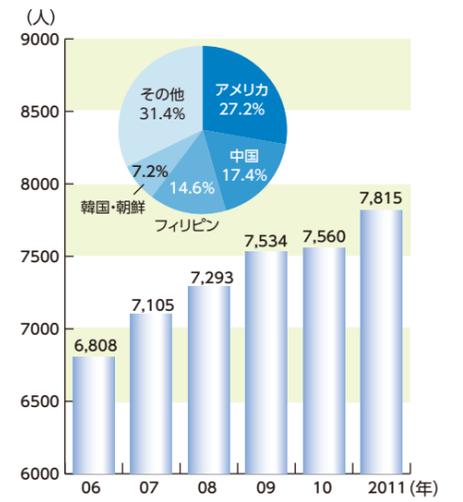
7,815人

国際通りでは多言語ののぼりが揚がり、外国人客を歓迎している。那覇空港には国際物流ハブ機能が構築され、海外との取引が活発化している。沖縄も国際化への道を着実に歩んでいるようだ。

県の推計人口によると、2011年10月1日時点の外国人登録者数は7,815人。年々増加しており、この5年で1,000人以上増加している。国籍別内訳を見ると、歴史的に大きな影響を受けている米国と中国の割合が多い。ちなみに、その他には台湾が多く含まれているようだ。しかし、県総人口に占める外国人の割合はまだ0.56%と、全国的に見ても高いわけではない。

琉球王朝時代から海外との交流が絶えなかった沖縄。実際、もっと多くの外国人を受け入れる素地はあるだろう。このまま外国人が増え続け、数十年後には、職場でも街なかでも様々な言語が飛び交う島になっているのかも…。

(海邦総研経営企画部/瀬川孫秀)



【食器の年間購入額】

545円/世帯

皆さんのご家庭では、どんな食器をお使いだろうか?メニューと器の組み合わせ次第で、食べやすさや見た目の美しさは大きく変わる。このため、料理人は器選びにとっても気を遣うものである。

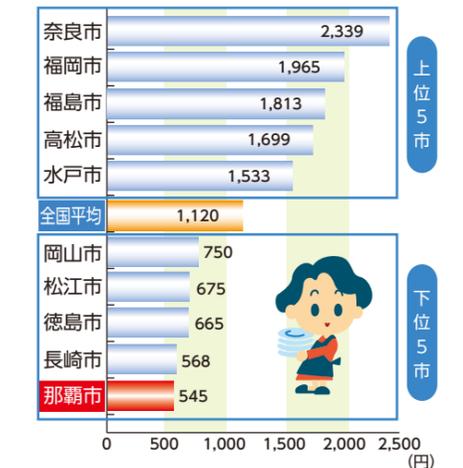
総務省「家計調査(平成23年)」で1世帯あたりの食器購入額をみると、那覇市は年間545円となっている。全都道府県庁所在都市の中ではもっとも少ない。ちなみに上位は、陶器産地やその周辺の都市が目立つ。

沖縄には、大人数の世帯が多い。このため、他の地域よりもたくさんの食器を購入していてもいい気がするのだが、この結果は意外である。

器にも少し気を使うことで、より豊かで楽しい食卓になるだろう。“やちむん”を取り入れれば、日常の中で伝統文化に触れ、それが生活の一部にもなってくる。

好みの器で楽しく食事をしながら、地域振興にも一役かうというのはいかがだろうか?

(海邦総研事業支援部/鮫島智行)



おきなわデータ算歩 けーざい100

「データ算歩」は県内でよく話題になる事柄を具体的に数字で裏付けて紹介しようと試みたもので、経済・数字の世界をまさに算(散)歩感覚で楽しみましょうという内容です。

「食生活」「生活・消費」「産業」「住環境」など八項目に分類。漫画やグラフを使い、見開き2ページで1項目を説明しています。アイスクリームやビールの購入額が全国一低いなど意外と思える数字も紹介。読みたい項目から読めるよう工夫しています。

沖縄県内各書店やインターネットでもご購入いただけます。沖縄けーざいを易しく知りたい、興味のある、という方に特にお勧め!

<http://www.kaiho-ri.jp>